

コンピューター情報と教育面の見込み違い

農学生命科学部長 豊川好司

toyokawa@cc.hirosaki-u.ac.jp

パソコンは多機能で、多くの用途に利用できます。最近では新しい器械などに順応の苦手な高齢者も会社などで覚えたパソコンを使って、メール交信や趣味を広げるなど、愉しんでいるようです。

私にとってのパソコンは、しばらく振りにパソコンに対峙するとすっかり操作方法を忘れてしまっているのです、ついつい大儀になって研究室の飾り物のようになっていました。振り返ってみるとパソコンと向き合う時間を積極的に作らなかったことと、自然現象かと思っている？記憶力低下もあって当然の成り行きでもありました。最近ようやく活用範囲の広い威力を理解するに至りました。そして周知のようにパソコンの操作は何もかも覚える必要はなく、自分に必要な使い方を知ると利用・活用の幅を広げてくれる手段となります。しかし人間の生き様の中にこれだけ広く深く入り込んだパソコンと人類の存続との関係には脅威を覚えます。

大学教育の中で最近先生方からよく聞くことは、レポートを課すと文章は言うまでもなく文字までほとんど同じ内容のものが見られ、パソコンからの情報収集によっていることが分かる、ということです。さらに情報をつなぎ合わせる作業で終わっているのです、専門知識として記憶されていないことが期末試験結果に表れているので、授業方法の連続性に結びついていないということです。学生達が期限に追われてレポートを作る一面的事情はありますが、私にはレポートのこのようなことは、教育思考の基盤としてインターネットを介し、短絡的な自律的個人主義方向を強化していると思います。大学の高次とされる知識形態のなかでコンピューターの影響がどんどん大きくなり、これらのデータ・情報を思考の基礎として受け入れる考え方が広まっていると思いますが、コンピューターと私たち人類との出会いはまだ短く、文化、特に人間の精神的・内面的主観に対し、コンピューターはどのような価値を持っているのか分かっていないと思っています。コンピューターの展開と合わせて、コンピューター文化をしっかりと論じておくことが求められていると考えています。

学生達には統計計算は理屈抜きでもコンピューターが瞬時に答えを出すことが至極当たり前のことですが、私の若い頃はと言うと、サンプル数が少し多いとタイガー手動計算機を一ヶ月は回しましたから、パソコンは便利この上ないものです。手紙の例で言うと、外国とのやりとりでは約2週間はかかるのが、メールでは瞬時に届くのですから、地球規模の距離感がなくなりました。時間が無いとか、急ぐ場合には本当に有り難い器械です。大学の授業を配信したり、仕事のデータを蓄えたり引き出したりするなど、色んなことを積極的に取り込みたい人にはコンピューターは一見して有り難いテクノロジーと思います。

一方、興味のない情報が自分のパソコンに勝手に入りこみ、はたまた他律的・中傷的信息も入り乱れて、コンピューターはテクノロジーが人類文化にもたらす恩恵を衰退方向へ導いている状況があるように思います。しかし、今やコンピューターは私たちの文化生活の中で消し去ることができないものになっているようです。

ともあれコンピューターからはこんなことまでもと思える、大百科事典も比較にならない多くの情報を得ることができ、率直にたまげています。